

## 指定奨学生4人に奨学金

2月4日、生田キャンパスにおいて、大石和男学生部長から指定試験奨学生(注※)4人に奨学金が手渡された。

▽鈴木康祐くん(法4)＝司法試験口述式合格

▽眞榮城大介くん(法3)＝司法試験短答式合格

▽諏訪卓也くん(法3)＝司法試験短答式合格

▽平山友暁くん(商4)＝公認会計士試験短答式合格

※司法試験・公認会計士試験等の資格試験に合格した在學生、または合格が期待される在學生を対象とした奨学生制度。

---

## コウサ展 crossing exhibition



ネットワーク情報学部の4年次生が中心となって企画した「コウサ展」が2月5、6の両日、東京・代官山のヒルサイドテラスで開かれた＝写真左、右。

学部の活動報告・作品の発信とそれを通じた交流の場の展示会には、ご父母や企業人など約180人が来場。情報系の研究発表のほか、映像系の発表などもあり、幅広く高度な研究成果を披露した。

---

## ショッピングセンターと地域の共存 協会主催コンペで準優勝

水村耕治くんと西山雄基くん <商学部・渡辺達朗ゼミ>



商学部渡辺達朗ゼミナールの2学生が(社)日本ショッピングセンター協会主催の「学生による研究発表コンペティション」に出場、準優勝となった。

2学生は水村耕治くん(会計学科4年)と西山雄基くん(商業学科4年)。「SCと地域との共存～SCと学生との協同文化祭」と題して、ショッピングセンター(以下SC)と学生が協同でスポーツ教室やアパレル関連のイベントなど若々しい感覚の文化事業を行うことで地域住民と交流するショッピングセンターの「今後」を提案した。1次審査をクリアした

あと5チームで争われる最終審査(1月26日、横浜市で開催)では、日ごろゼミ活動で培ってきたプレゼン能力を十二分に発揮、優勝は逃したものの準優勝の表彰盾と賞金10万円を獲得した。

カラオケボックスも利用してプレゼンの練習を重ねてきたという二人は共に埼玉県在住。中心の大宮駅周辺は百貨店、スーパーやSCが数多く軒を連ね“流通戦争”が展開されており、大型店舗が周辺に及ぼす影響に興味を持っていたという。

「中小企業診断士(大学院修士課程、渡辺ゼミ所属)の方からアドバイスをいただき発表に備えました。テーマが将来の進路にも関連する内容だったので、やりがいを感じました」(西山くん)、「渡辺ゼミに入る前は人前で話すのは苦手でした。それが前年度にゼミ長を務め、コンペで賞までいただくことが出来ました」(水村くん)と卒業前に素晴らしい思い出が出来た喜びをかみ締めている。

---

## 竹村ゼミの2学生が懸賞論文に入賞

### 第20回電気通信普及財団賞

経営学部竹村憲郎ゼミの小埜山和幸くんと山本崇くん(いずれも4年次生)が「第20回電気通信普及財団賞」懸賞論文で入賞を果たし、賞金20万円を獲得した。同ゼミでは毎年、同懸賞論文に応募しているが「二人入賞」は珍しい。表彰式は卒業式当日のため出席できなかったが「最後に素晴らしい思い出が出来た」と喜びを語った。

論文のテーマは小埜山くんが「モバイル環境の変化に伴うモバイルラーニング発展の可能性」、山本くんが「無線LANによるデジタル・デバイド解消の考察」。4月から官公庁のソフトウェア関連のSEとして働く小埜山くんは「竹村ゼミで鍛えられました。今回の懸賞論文も先生に勧められ応募しましたが、チャレンジして良かったです」と振り返った。大学院経営学研究科に進学が決まっている山本くんは「ゼミ活動と教育実習が印象に残っている。『人の心が分かる』教育者を目指します」と目を輝かせた。

---

## 授業聴講の高校生に修了証書 — 高大連携 —



▲修了式で担当教員と握手する高校生

高大連携の一環として大学の授業を聴講してきた高校生17人(神奈川県内の県立川崎、生田東、百合丘、海老名、横浜桜陽の5校)に対する修了式(後期)が1月22日、生田キャンパスで行われた。約60人が参加し、授業担当教員から修了証書が交付されたほか、高校生からの感想、授業担当教員による講評、学生サポーターからの感想、高校で実習した教科研修生の報告などが行われ、各校長から挨拶があった。

---

## キャンパス情報

4月5日(火)は入学式のため窓口業務は行いません。証明書自動発行機の利用もできません。

〈就職活動用証明書の発行について〉

現3年次生については、3月23日(水)から発行しています。(3月31日は年度末処理及びメンテナンスのため運用を停止します)

〈平成17年度オリエンテーション・ガイダンスについて〉

在学生のオリエンテーション・ガイダンスは4月1日(金)より実施されます(年次等により日程が異なりますので、送付された「オリエンテーション・ガイダンス日程表(3月18日に成績通知書に同封して送付)」により確認してください)。

授業は4月11日(月)から開始されます。

〈奨学金募集ガイダンスについて〉

学生生活課ホームページ、掲示で確認してください。

※「学生生活情報」のページがリニューアルされました。

〈学生手帳の配布について〉

履修ガイダンス時に配布します。

▼エクステンションセンター事務課より

〈会計士講座の受講ガイダンスについて〉(2・3年次生対象)

大原簿記学校との提携による「会計士入門講座」は公認会計士2次試験合格を目標とし、その過程において日商簿記検定2級の取得も出来ます。受講希望者は必ずガイダンスに出席してください。

〈司法試験制度変更に伴う説明会の実施について〉

司法試験制度変更により、平成18年度から新司法試験が実施されます。司法試験制度変更に伴う説明会の詳細は決定次第、掲示でお知らせします。

---

## バイク通学は禁止です！

専修大学では

- (1) 公的交通機関の通学が容易であること
- (2) 交通事故の危険性があること
- (3) 違法・迷惑駐車が近隣に迷惑を及ぼすこと
- (4) 騒音などが授業に支障をきたすこと

などの理由からバイク通学は生田校舎・神田校舎とも全面禁止しております。

---

## 翻訳の風景

三浦弘(文学部教授)

—英語力をつける読書ガイド

(最終回)—



『翻訳夜話』(村上春樹・柴田元幸著、文春新書2000年刊、777円)

社会へ巣立つ卒業生の皆さんは、ますます実用的な英語力が求められるかもしれません。そのためには基礎固めとして何よりも良い文章(英語と日本語)を読むことが大切です。私も卒業直後に高校教師になった時、最初に始めたことは『ニューヨーカー』という米国文芸誌の定期購読でした。最も濃密な読み方は翻訳という作業です。

今回の本では、本業が小説家と東大教授という著名な翻訳者2人が翻訳の楽しさを語っています。内容はやや高度ですが、自分の語学力の範囲内で学習に応用できます。翻訳はすべてリライト(書き換え)なので、そもそも正確な翻訳というものはありません。訳者が原文を読んで心に描く風景、あるいは訳すときに切り取る風景は、語学力

や文化的背景だけではなく、そのテキストへの愛情やそのときの体調によっても異なるからです。

本書は学生や若手翻訳家を交えた3つの翻訳討論会の記録と2人の「競訳」(「共訳」ではなく、同じテキストをそれぞれが訳し比較すること)からなっています。討論では、2人の翻訳観(本音)が語られていて、翻訳の指南書や翻訳論の研究書よりもずっとおもしろく役に立ちます。

競訳では「アメリカのチェーホフ」と呼ばれるレイモンド・カーヴァーと「アメリカのカフカ」と称されるポール・オースターの短編を取り上げ、それぞれを2人が個別に訳した作品が掲載されています。原文も付いているので、じっくりと吟味すれば、多くの新発見があるでしょう。

英語に限ったことではありませんが、社会人となって時間に追われる日々にあっても、雑誌やマニュアル本ばかりではなく、難解な書物にも触れ、知力を鍛え続けてください。

【ニュース専修2005年3月号14面】